【スーパー讃岐っ子育成事業とは】

将来、日本や世界で活躍し、夢や感動を与えることができるアスリートの育成を目指す事業です。香川県内の小学４、５年生を対象に、書類審査や体力測定により優れたスポーツの素質を有する子どもたちを発掘し、関係団体と連携・協力を図りながら、専門的な指導者によるさまざまな育成プログラムを行います。中学生になったスーパー讃岐っ子はシニア事業に参加することになります。

（参照）"スーパー讃岐っ子育成事業について". 香川県教育委員会.
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hokentaiiku/taiiku-sports/sports/sanukikko.html, (2022/9/16).

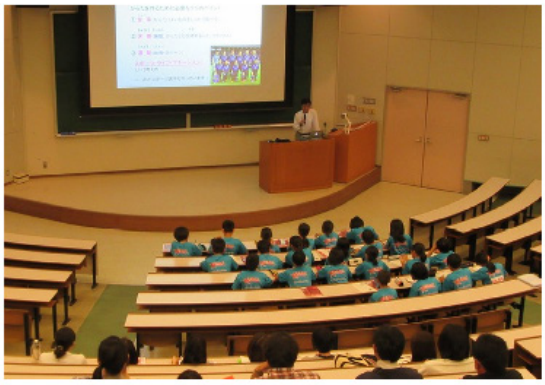
【四国学院大学と香川県による包括連携・協力に関する協定】

2013 年度に、本学と香川県は包括連携・協力に関する協定を締結致しました。

この協定は、双方が有する人的・物的・知的資源を連携・協力して活用することにより、地域課題の解決を図り、個性豊かな地域社会の形成および発展に寄与することを目的としています。

本学と香川県は、これまでにも様々な事業に連携して取り組んできましたが、この「スーパー讃岐っ子育成事業」においても協定に基づき、本学の教員（専門分野：スポーツ科学）が、スーパー讃岐っ子育成委員会の委員として専門的な知見を活用し、スーパー讃岐っ子の選考、スポーツ体験プログラムや育成プログラムの内容、実施体制の検討、事業成果の検証等を通じて、この事業の運営に協力しています。

また、この教員が担当する本学の全学部・学科で履修可能な授業「ﾌｨｰﾙﾄﾞ・ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾑⅢ(ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ実践演習Ⅲ)」の受講学生は、スーパー讃岐っ子の選考会において投・走・跳動作の測定補助実習が設定されており、自ら主体的に課題を設定し、調査、考察を重ねることで、実習をより円滑に実施し、地域課題の解決を図ることを目指しています。



【2022 年度の活動報告】（「スーパー讃岐っ子育成事業　2022 年度 第３回育成委員会」資料より抜粋）

12期生

【第１１回】令和４年１１月５日（土）１８：００～２０：００　「四国学院大学」

【栄養学・ニュースポーツ体験】　漆原　光徳　先生

第１１回プログラムは四国学院大学の漆原先生による「栄養学」、後半はニュースポーツ体験（ユニホック・カローリング）を行いました。栄養学の感想では「食事・睡眠・運動」の大切さがわかったという意見や、保護者の方からは朝食についての質問があったりと本当に充実した講義となりました。ニュースポーツ体験では、ユニホックとカローリングの２種目を体験しました。

14期生

【第９回】令和５年２月２５日（土）18:00～２0:00「四国学院大学」

【ニュースポーツ体験＆保護者プログラム（栄養学）】四国学院大学　漆原 光徳 先生

第９回プログラムは、スーパー讃岐っ子育成委員の漆原先生（四国学院大学教授）による保護者への栄養学講義と、児童は「カローリング」「ユニホック」の２競技を体験しました。

講義では、体をつくるために必要な食事について、特に朝食を食べないと、午前中に頭が働かず、やる気もわいてこないといった内容のお話や、運動時の適切な水分の取り方などを教えていただきました。

「カローリング」は、カーリング競技とほぼ同様のルールで行い、目標のゾーンを目掛けて友達とコントロールを競いました。「ユニホック」は、道具がマイスポーツ体験のホッケー競技で使用したスティックと同じだったこともあり、「やったことがある！」「まだやりたい！」とチーム編成も自分たちで考えながら、休憩時間もチームで練習をするなど、時間いっぱいプレーしました。

【第７回】令和４年６月２５日（土）18:00～20:00　「四国学院大学」

【ｶﾛｰﾘﾝｸﾞ・ﾕﾆﾎｯｸ体験、ｽﾎﾟｰﾂ栄養学（栄養学Ⅱ）】ｽｰﾊﾟｰ讃岐っ子育成委員　漆原　光徳　先生　他

第７回スーパー讃岐っ子育成プログラムは、四国学院大学でスーパー讃岐っ子育成委員の漆原光徳先生によるスポーツ栄養学（栄養学Ⅱ）を行いました。

保護者プログラムでは、漆原先生から「色々な飲み物にどれくらい砂糖が入っているか」、「水分補給」「毎日の生活習慣」などについての講義がありました。将来トッププレーヤーになるために、日頃の食事・運動・休養をどうしていくことが大切なのかを考えるきっかけとなりました。

カローリングは、「カーリング」に似ていて、得点ゾーンにジェットローラー（カーリングでいうストーン）を転がしてとめるスポーツでした。実際にやってみると、進む方向と力のコントロールが難しく、悪戦苦闘していました。各チーム内で教え合いをしたり、対戦チームのプレーを見たりしながら、大盛り上がりで笑顔の絶えない活動でした。

ユニホックは、昨年のスポーツ体験プログラムで一度経験してたので、慣れた手つきでパスやシュートをしている姿が見られました。子どもたちが純粋にスポーツを楽しんでくれるとともに、チーム内でアドバイスをしたり、相手チームの動きを見ながら声かけをしたりと、どんどん意欲的に行っている姿を見る機会が増え、日々成長しているなあ～と感じました。